

白髪山を最高点として湧出し、物部川本流の植山川と上葎生川を隔て、大板まで続く物部の脊骨のような稜線。  
 この尾根の中心部であり白髪山以南では最高点にあたるのが口西山である。  
 みやびの丘から南下する尾根はフナエ主体とした原生林の中、モミツガ、アヒキ、リュウグウツツジ類など深山の雰囲気濃厚。木々の間から石立、三疊、天狗塚、細附森も見え、口西山周辺は猛烈なスズクエにおおわれ、この山域を守っているようだ。  
 山頂から東へ平坦な尾根もスズクエをかき分け、進めると源氏の森へ。南西へ進むと井地山へ、勘定山方面へフナエの森を歩く。



長い年月をかけて生成されている森林環境を歩く。地面の柔らかさを感じ、足元にある無数の命を感じる。土の中にある根、こぼれおとしを見上げて緑があるだけ根が伸びている。地面から見上げる空は美しい。森の空気に抱かれ、土に還ることほとんど自然で安らかなのかもしれない。

人間も自然の一部。宇宙の運行に従って、森も鳥も花もみみは自然の中での13年者と出合っている。そんなと風、土を森歩き。

この尾根で白髪山以南の最高点である口西山。山頂の三角点は深いスズクエの中にも見えている。  
 フナエ中心とした美林の中を歩く。  
 ツツジのトンネル  
 動物が命を落とす池  
 平坦な尾根、倒れやすい  
 スズクエ深い、壁  
 1,529m  
 源氏の森  
 三つの尾根が重なっている  
 平家伝説が数多く存在する物部において、坂東武者集団の名を冠する源氏の森は、いったい何を意味するのだろうか。四つ足城を越え、源氏の道手がたどった山なのか。西北の平家城や大板の平家ノ森との対比なのか。この奥深い別府の山の中に名を記す源氏の森は、実に不思議である。2022年5月6日、空を仰ぐといっしょに白い花びらが一枚一枚、風に舞いはじめた。オクメノキだ。まるで風にたなびく源氏の白髪のように見え、いつか空の青と吸い込まれていった。

この尾根の中心部である口西山から勘定山にかけて北傾し、南側にも稜線と谷との高低差は1,000mを越えている。  
 井地山 1,465m  
 山行7-9 2022.5.6 約15km 多時間24分  
 南側に目とせると五位ヶ森、杉谷山など安芸境の山並み。

物部川の源流点は白髪谷か、ジツツツか？  
 白髪は標高が高く、ジツツツは流路が長い  
 63林道  
 紅香橋  
 アケウ谷  
 79ウエシ  
 奥西谷  
 クラトコ谷  
 中西谷  
 紅霞橋  
 別府-大板-神門 談話所  
 舟入川-高野川へ

深い谷から切り立つように別府の山々がそびえている  
 みやびの丘  
 剣山と石立山が面よく見える  
 シカの食害から森を守る取り組み  
 菅林署の作業、配電板があり、出動したら自分の名前を札に返していたこと  
 菅林署の作業、配電板があり、出動したら自分の名前を札に返していたこと

特別に高い山やことのはか深い淵など、人々は自然の驚異を感じ、何か神霊の宿るものだと信じ、神を祭り、数々の不思議な伝説を死して、高山、深淵がたくある物部の中でも別府の赤釜、クラトコ谷、79ウエシなど、それぞれに物語が伝わっている。  
 菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

口西は扇の要のように山が真鍮地形。昔は木材集積の拠点であった。菅林署の別府製材事業所があった。  
 別府山 49 林道はあまりにも険しい地形のため人の手が一切入らなず、100%が天然林の林班は四国一

修羅ヤ山内軌道により、築かれて口西まで材を運ばれていた。  
 菅林署の別府製材事業所  
 別府山 製品事業所  
 赤釜  
 別府山 製品事業所

菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

菅林署の住宅があり、水が流れていて、雨かを流すので、菅林署

# 口西山